

農山村の力を活かした「美しい伊豆」づくり ～わさび田の多面的活用～

活動期間：令和2年度

○ 取組の背景

従前のわさび産地振興は、優良品種選抜等、生産振興面での支援を中心に行っていた。

しかし、平成30年3月にわさびが世界農業遺産に、同年4月に伊豆半島がユネスコ世界ジオパークに認定された。これを契機に、わさび田の保全や技術の継承、多面的活用が求められている。



○ 課題・目標

生産者からは、観光振興による単価上昇等のメリットを期待する一方、観光客等がわさび田を訪れることに対しては、盗難やごみ放置などマイナス面のイメージを強く抱いており、否定的な意見が多く聞かれていた。

一方で、世界農業遺産・ジオパークの認定を契機として、わさび田が観光資源として見直され、観光活用のニーズが増加しつつある。賀茂農林事務所では、従来の生産振興面での支援と併せて、関係機関と連携した生産者の意識改革や観光活用に協力してくれる生産者の掘り起こしと育成を課題化することで、わさび田の多面的活用を通じた生産意欲向上・地域活性化につなげる。

世界農業遺産・伊豆半島ジオパークの認定



伝統栽培の保全、持続的な取組の推進



関係機関との連携、研修会等の開催による生産現場の意識改革



観光客等の受入(収穫体験等実施)、加工品の販売



生産者の自主的な取組による地域活性化、生産意欲向上

普及指導員の活動

1 生産者の意識改革に向けた取組

<～令和1年度まで>

- ・築田研修会による荒廃わさび田の再生
↳河津町大鍋(H29)、西伊豆町大沢里(H30)
- ・再生わさび田を活用した、小学生を対象とした体験学習の取組
↳定植体験(H30)、収穫体験(R1)、加工体験授業(R1～R2)
- ・ジオパークとわさび田の関係を学ぶ研修会の開催(R1)



【講義】

世界農業遺産に認定された意義と今後(農芸振興課)
世界ジオパークと地域農産物の関係(伊豆半島ジオパーク推進協議会)
ジオガイドツアーの実態と求められること(伊豆半島ジオガイド協会)

<令和2年度>

- ・ジオガイド協会と連携した模擬ツアーの開催
↳わさび田とジオパークの関係を学ぶ現地研修会@西伊豆町
- ・わさび田の見学・体験を組み込んだジオツアーの提案
↳松崎町池代地区わさび生産者に対するジオツアーの提案と協力要請



2 観光協会と連携した取組 ～河津町大鍋地区若手生産者グループの取組～

河津町観光協会が河津町大鍋地区の生産者ととともに、わさび収穫体験を組み込んだツアーの造成に取り組み始めたため、ツアー化に向けた支援を実施

<活動内容>

- ・関係者との打合せ(2回)
- ・わさび収穫体験事例の現地視察
- ・観光利用候補わさび田安全点検(10か所)



1 生産者の意識改革に向けた取組

■生産者の意識変化

- ・R1.10月、R2.7月に研修会を開催した結果、関心度合いに差はあるものの、観光利用に興味があるとの回答が得られた
- 調査対象合計:17人

積極的に取り組みたい	観光利用に興味がある	興味はあるが案内できるわさび田がない
4人(西伊豆町)	4人(松崎町)	9人

■西伊豆町でのツアー造成

- ・西伊豆町の個販生産者が、ジオガイド協会と連携して実施した模擬ツアーを契機として、収穫体験を含むジオツアーの造成が具体化した



■松崎町におけるジオツアー化に向けた検討

- ・松崎町池代地区では、観光利用に興味を持った生産者との意見交換を通じて『生産を主体としながら、取組可能(持続可能)なジオツアー案』を提案した
- ・ジオツアー案提案により、女性を中心にジオツアーの今後の取組に積極的な意見が出たことから、観光利用に関心のある生産者と関係者によるツアー具体化に向けた検討が始まった

2 観光協会と連携した取組

■わさび収穫体験のツアー化支援

- ・河津町観光協会と連携、役割分担し、ツアーの具体化を支援

	主な役割
観光協会	<ul style="list-style-type: none"> ○ツアー実施に向けた体制整備支援 ・収穫体験を受け入れる団体の組織化(若手生産者6人) ・モニターツアーの開催
賀茂農林	<ul style="list-style-type: none"> ○収穫体験の内容・実施方法に関する支援 ・わさび収穫体験の事例調査(西伊豆町) ・収穫体験時のアドバイス(安全点検確認)



- ・令和3年2月1日よりわさび収穫体験がツアー化された。

○「今後の方向」

■わさびの生産拡大と地域活性化

- ・生産者の意向を踏まえたジオツアーの造成
＜持続可能なツーリズムの実施＞



- ・地域と都市住民の交流機会拡大



- ・生産意欲の向上による生産の拡大

